

1. 不織布は軽く、通気性に富み、方向性が無いなど、従来の織物には見られない多くの長所を持っている（家政学雑誌 Vol. 11 No. 5, Vol. 12 No. 4 に発表）。しかし、衣服材料として用いた場合、身体になじまず被服の美観を損ねるきらいがある。不織布の用途が芯地から外衣へと開発されつつある今日、これは衣服材料として一つの欠点と考えられるので、被服形成態について二、三検討を加えてみた。

2. 実験試料は市販不織布数種。円形に裁断した試料布を円板上にかぶせ、垂下した布端がつくる投影面積からドレープ係数を測定。つぎに市販柔軟剤数種を用いて処理し、そのドレープ係数を求め、原布のそれらと比較してみた。また、柔軟性について垂下法により測定を行なった。

3. 1) 不織布は概してドレープ性が小さい傾向が認められる。

2) 不織布の柔軟処理は、そのドレープ性向上に効果のあることが認められた。

3) 不織布は比較的硬く、柔軟性にやや欠ける傾向が認められる。